

米山吉尾ルート「一の坂・二の坂」

柏崎市と上越市柿崎区にそびえる米山（993 m）は、和銅5年（712年）に泰澄が開山したと伝えられる薬師信仰の霊山で、頂上には米山薬師堂が建つ。江戸時代中期以降には、米山は農薬神として長野県北部までも広く信仰され、五穀豊穡を願う人々により米山講が組織された。市内外を問わず、多くの人々が米山に登り、その記念に「当帰」を持ち帰り家の軒下に吊るし、厄除けや魔除けにした。

米山の吉尾ルートに「一の坂・二の坂・三の坂」や「釣瓶落とし」と呼ばれる急坂がある。現在の吉尾口は吉尾地区にある法興寺の脇にあり、米山山頂までの所要時間は、登山道の中で最も短い約2時間であるが、古くは小杉から吉尾口へ向かう旧登山道から登ったという。

笹川芳三氏が著した『続こどものための柏崎物語』では、御嶽山の子ども登山隊が、旧登山道から吉尾へ向かい、米山登山した様子を記している。登山隊は柏崎市街を真夜中に出発、鯨波の薬師堂海岸付近にある道標「左の坂は米山薬師さんけい道」に従い進み、谷根トンネルを越え、谷根集落の橋で休憩をする。



上頂薬師山米 (河名近衛増録)

米山薬師頂上

(小竹コレクション絵葉書No.5560当館所蔵)

坂さんぽ

11

谷根集落からは、猿飛橋に向かわず、細い山道に入り小杉集落へ進んでいる。登山隊は小杉集落から足のすくむような急な坂を一気に滑り降り、^{はらいがわ}弘川に着くのだが、かつて小杉集落にあった正平寺の裏の急坂を下ったものと推測される。現在、この辺りは採石工場等に変わっている。弘川を境に、いよいよ一の坂が始まる。登山隊の子どもたちは弘川の水を力水にして一の坂に臨んだという。「前の人のかかどが鼻の頭につくような急な坂が現れた」「二の坂も一の坂に負けないくらいかなりの急坂であった」「息が切れ、汗が出る、のどが渇く」という様子からは、大変な坂であったことがわかる。二の坂を登りすすめ、山伏岩が見えると、二の坂は終わりになる。山伏岩の地点は、標高約600mにあたる。谷根の人々は、山伏岩をイボ岩と呼んでいる。

一の坂・二の坂の途中には、首なしの丸彫り地藏が三地点に置かれ、このうちの地藏台座には「文化九年申四月 當國刈羽郡柏崎町 施主 大久保甚三郎」と刻まれており、この坂が江戸時代に柏崎方面からの参拝路であったことを裏付けている。

これから米山は新緑の季節を迎える。多くの人々が故郷の山に登り、登山を楽しむことだろう。

●参考にした本

『続こどものための柏崎物語』笹川芳三 著（224 ササ）

『柏崎の道標 柏崎市石造文化財調査報告書第五集』

柏崎市立博物館発行（387 カ）

『越後の山脈 下巻』藤島玄 著（290 フシ 2）

『谷根—自然・文化・生活—』

柏崎市ガス水道局発行（292 Kカス）

柏崎市立博物館渡邊学芸員、竹内昇平氏にお話をお聞きしました。ありがとうございました。